

空知地区 学校経営研究会

- 1 **目的** 北海道小学校長会・北海道中学校長会、及び地区校長会が抱えている学校経営上の具体的な課題を取り上げ、その解決の方途を法制研究の視点から探る。
- 2 **主催** 北海道小学校長会 北海道中学校長会
- 3 **後援** 北海道教育庁空知教育局
空知管内市町教育委員会連絡協議会教育長会
- 4 **主管** 空知校長会
- 5 **期日** 平成30年10月16日（火）
- 6 **会場** ホテルサンプラザ（岩見沢市）
- 7 **参加者** 空知管内小中学校長会員他（105名）
- 8 **日程**

12：30～13：00	受付
13：00～13：20	開会式
13：40～14：30	研究協議
14：30～16：00	ワークショップ
16：15～16：30	閉会式

9 研究協議

◇ 最近の教育情勢報告

全道：北海道中学校長会 会長 梶本直樹氏
管内：空知校長会 事務局長 砂川昌之氏

◇ 空知地区からの質問・要望事項に対する回答

北海道小学校長会 対策部幹事 多谷雪浩氏
北海道中学校長会 対策部幹事 岩田克範氏

- ・期限付き教員採用の現状と課題
- ・外部人材活用の現状と効果や課題
- ・ICT機器を活用した授業づくりや教員研修の現状と課題

10 ワークショップ（13グループ）

協議題「学校力を高めるための協働・共育・共生の在り方と校長の関わり」

（1）各学校における現状の交流

- ・学校経営のプランニングシートやグランドデザインを提示の方法や職員への意識付け等工夫しながら進めている。
- ・管理職の授業参観と面談による意識改革を進めている。
- ・課題のある教員や中核になる人材の不足が組織としての課題となっている。
- ・ピア・サポートを活かした学級経営や授業改善を学校経営の視点として進めている。
- ・一人一人の役割を明確にすることでスムーズな学校運営を図るようにしている。
- ・道徳の評価化に向けて、全職員で取り組んでいる。
- ・組織のスリム化を図り、学校規模の利点を生かして組織の充実を図っている。
- ・数値目標を経営方針の中に示したり、学校の実態を反映しつつ、校長のビジョンや思いをしっかりと伝えたりすることで、教職員の意識を高めている。

（2）効果的な取り組みの実践交流

【教育効果を高めるカリキュラム・マネジメントに基づく「協働」】

- ・プランニングシートを改善して組織的な取組を明確にし、そのスケジュール化や役割の見える化を進めることで評価に活かすことができる。
- ・プランニングシートで、教頭を動かしたりゴールを示したりすることで職員の目的意識が変化してくる。教師も生徒もどう動かすのかが校長としてのマネジメントである。
- ・組織のスリム化を図り、異動の影響が少ない学校規模にあわせた分掌組織など校内体制のシステム化が重要である。
- ・全国学力学習状況調査の結果から相互授業参観や複数回授業公開、T Tの効果的活用などに取り組むとともに、学力向上に向けた地域への啓発や保護者の意識改革を進めている。

【指導方法の改善・充実に基づく「共育」】

- ・子どもたちが自ら主体的に学ぶ姿勢に変えることが最も大切であり、その基盤が学習・授業スタイルの確立、統一である。授業参観シートを活用し職員に還元するなど管理職の授業観察の視点が重要である。
- ・「主体的・対話的で深い学び」について勉強はしているが、文書のみでイメージが乏しかったりベテランの意識が薄かったりする傾向がある。優れた授業を見せたり研修に講師を招いて授業チェックしてもらったりすることで職員の研修意識が高くなる。

【学校間や学校との地域間の連携に基づく「共生」】

- ・コミュニティ・スクールについては、学校単位や中学校区単位等で進んできているが、教頭が窓口だと負担が多く教育委員会と学校の役割を明確にしておく必要がある。
- ・すでにコミュニティ・スクールが導入されているところは、これまでの活動を整理し教職員にも関わりを多くする。これからのところは地域や関係機関との体制作りや校内の組織体制を見直しながら進めている。
- ・PTA活動を地域PTA活動としたり、既存の組織や活動をシステム化したりするなど、今あるものを整理活用することで地域とのつながりを深めている。
- ・コミュニティ・スクールを学校の応援団として機能させるために、マイナス面を説明しつつ利点を説明していくことが大切である。人材が少ない町は、特定の人材が重複するしかないという課題もある。

【喫緊の今日的課題】

- ・ミドルリーダーは黙っていても育たない。短期的、長期的なビジョンや視点を持たせ、やらされ感をなくし、学校運営上の影響力を持つ人間になれるように配置、活用しながら育てていくことが大切である。
- ・災害時の危機管理で、電話が使用できない等の事態が発生した。グループラインやブログ、エリアメールの活用等の方法を検討しておく必要がある。
- ・働き方改革に向けて教頭の業務時間の短縮や教育相談を複数体制のグループ対応で進めているところもある。
- ・部活動については保護者の意識に温度差がある。指導者の確保や体制づくりも難しいが、地域からの協力者が増えてきているところもある。一方、部活動の教育的側面も大切にしたい。

(3) まとめ

- ・空知の課題として、「協働」に関しては、ミドルリーダーを中心とした組織的な教育活動の推進、「共育」に関しては、授業改善に対する意識、「共生」に関しては、コミュニティ・スクールの推進状況の差、「喫緊の今日的課題」については、特に胆振東部地震による災害時対応の在り方があげられる。
- ・そのために校長の指導力は重要であり、学校や教師の力をどう高めていくか、地域とどう繋がっていくかが極めて重要である。
- ・新学習指導要領の理念を踏まえ、管内の先進的な取組も参考にしつつ教育実践を進める必要がある。

11 閉会式

ワークショップでの交流会に続き、空知教育局泉山義務教育指導監から講評を受けた後に閉会式を開催。空知校長会藤森副会長の主催者挨拶をもって閉会した。